

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

10月23日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」、の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生が確認されませんでした (表1)。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温	クロロフィル	ザラボヤ		ユウレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ	0~10m	16.9~17.1	0.3~0.7							1	2.5		
	10~20m	16.5~16.9	0.4~0.8										
	20~30m	15.8~16.5	0.6~1.0										
なか	0~10m	16.8~17.1	0.2~0.7							5	12.5		
	10~20m	16.5~16.8	0.4~0.8										
	20~30m	15.7~16.5	0.5~0.8										
しも	0~10m	16.8~17.2	0.4~0.9							3	7.5		
	10~20m	16.5~16.9	0.5~1.5							1	2.5		
	20~30m	15.6~16.5	0.6~1.0										

【参考資料】

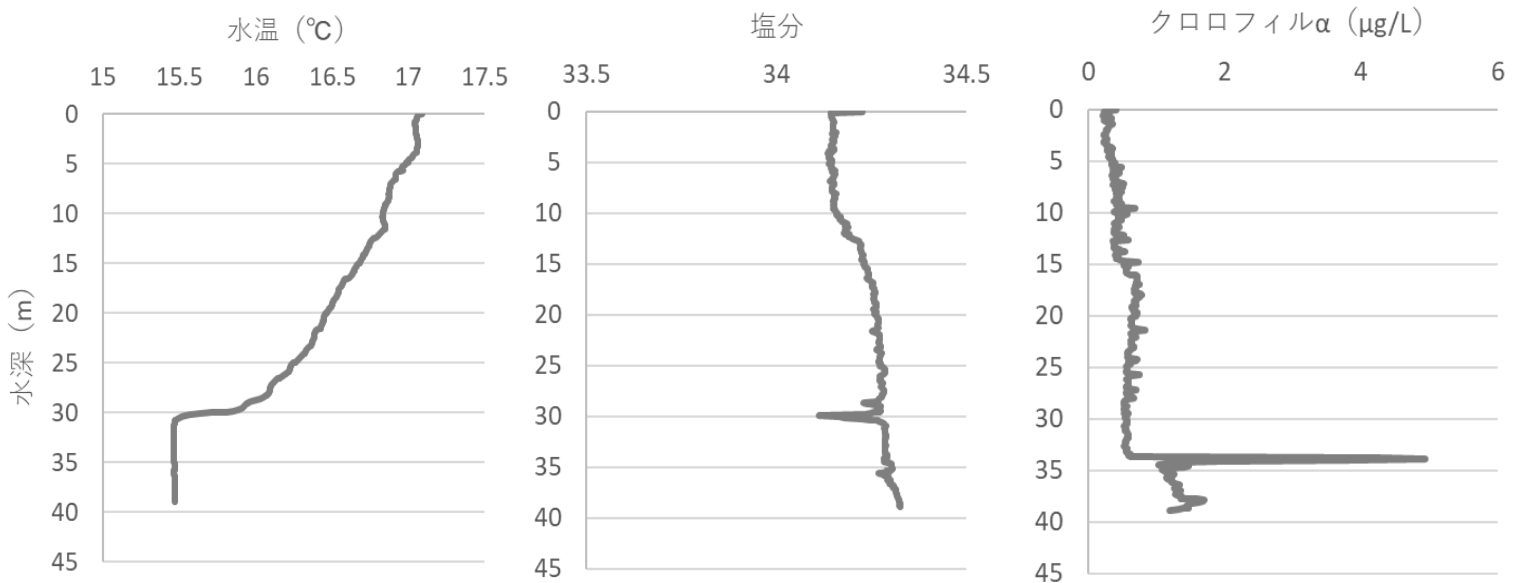


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

- 部会の桁に設置した試験籠にザラボヤの付着が確認されました。
 - 試験籠の付着数は39個体で、各段の付着数は0～8個体、平均付着数は2.4個でした(図1)。
 - 籠の上面に20個体、側面に15個体、下面に4個体が付着しており、上面と側面に付着が多いことがわかりました(図2：計測場所の概念図)。
 - 部会の桁に設置しているザラボヤ付着プレートにザラボヤの付着が確認されなかったことから、9月中旬から10月中旬のザラボヤ幼生の発生はほとんどなかったものと考えられます。
-
- ザラボヤの付着が多い籠について、ザラボヤ付着量を調べた結果、付着数は850個体で、各段の付着数は27～74個体、平均付着数は42.5個でした(図3)。
 - 籠の上面に313個体、側面に479個体、下面に58個体が付着しており、上面と側面に付着が多いことがわかりました。
 - 試験籠は新品を使用し、付着が多かった籠は何度か使用したものでした。

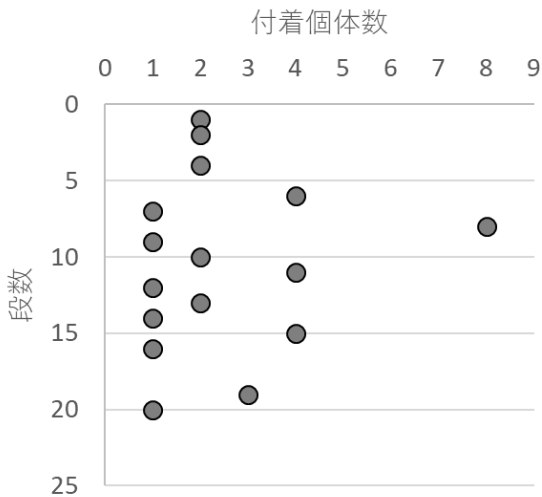


図1：試験籠におけるヨーロッパザラボヤの付着数と分布。段数は数字が小さいほど水面側を示しています。

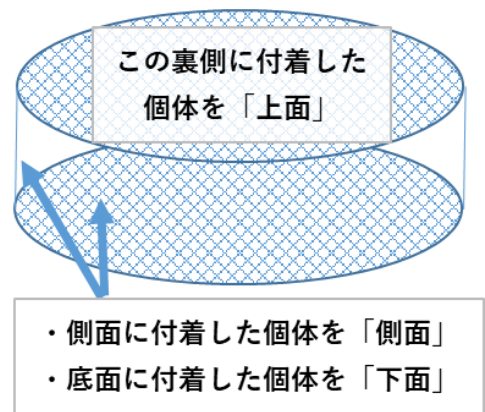


図2：試験籠の各段の計測箇所の概念図。

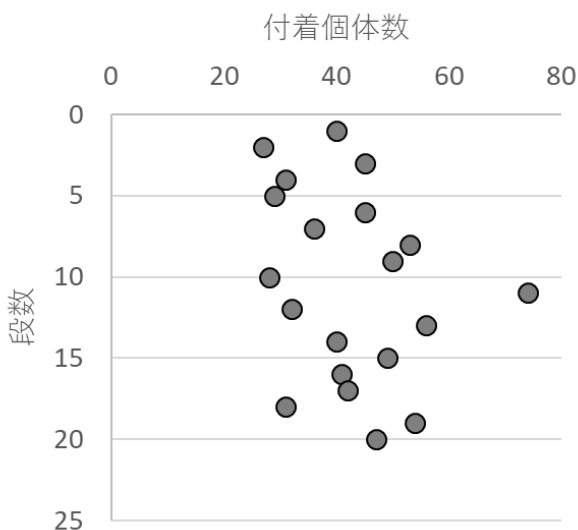
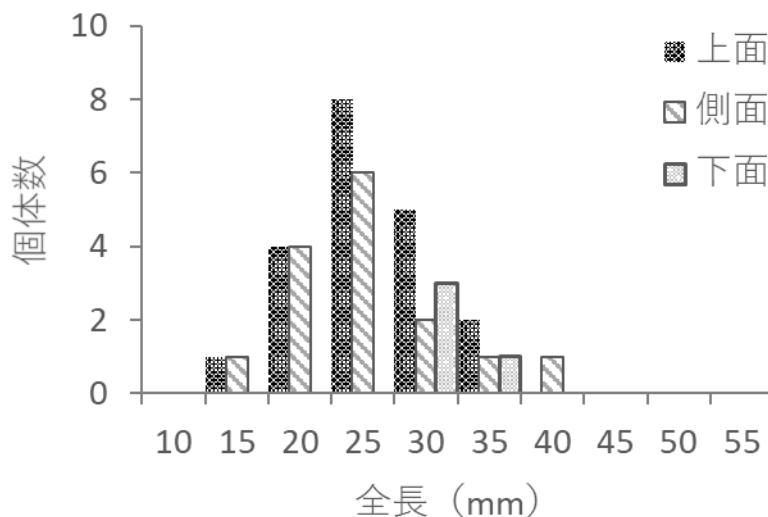


図3：付着が多かった籠におけるヨーロッパザラボヤの付着数と分布。段数は数字が小さいほど水面側を示しています。

◎ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所（図4）

【試験籠の結果】

- 上面：主に 15～35mm の小型～大型の個体が付着していました。
- 側面：主に 15～40mm の小型～大型の個体が付着。40mm 以上の大型個体は側面だけに見られました。
- 下面：主に 30～35mm の大型個体が付着していました。



【付着が多かった籠の結果】

- 上面：主に 15～55mm の小型～大型の個体が付着していました。
 - 側面：主に 10～50mm の小型～大型の個体が付着していました。
 - 下面：主に 20～40mm の個体が付着していました。
- 付着したザラボヤの平均体長は試験籠で 22.6mm、付着の多かった籠で 27.2mm でした。

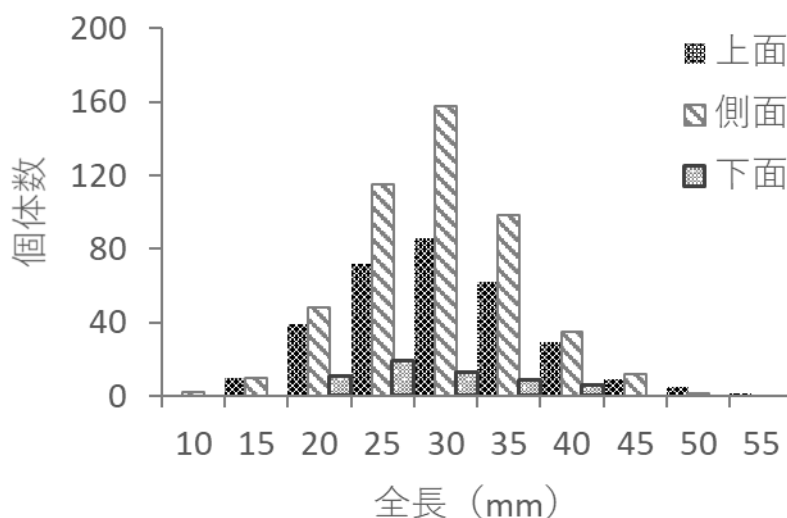


図4：ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所の関係。上図は試験籠を、下図は付着が多かった籠を示します。

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>